

入院患者をサポートするための 医科歯科連携の手引き



令和4年3月

宮崎県歯科医師会

宮崎県・宮崎県口腔保健支援センター

はじめに

県では、患者のQOL向上及び医療費の減少につなげることを目的に「地域医療支援病院等における医科歯科連携事業」を宮崎県歯科医師会に委託し、地域医療支援病院やがん診療連携拠点病院等の患者に対して、誤嚥性肺炎などの感染症予防や口腔内の合併症を予防、軽減するための口腔管理を行っています。

また、本事業の一環として、県内の医科歯科連携の現状を把握するため、令和3年度に周術期を含む入院患者への口腔ケアに関するアンケート調査を実施し、医科歯科連携を推進するための効果的な方法を検討しているところです。

この手引きは、これから医科歯科連携に取り組む病院を対象に作成したものであり、病院における医科歯科連携の流れ、日常的な口腔ケア等について記載しています。

最後に、この手引きが地域医療支援病院等における医科歯科連携推進の一助となり、県民のQOLの向上につながれば幸いです。

医科歯科連携の意義

全身麻酔法による手術や入院前に歯科で口腔管理を行うことで、術後合併症リスク低減、入院期間の短縮、入院中のQOL向上等につながります。また、化学療法や放射線治療を行う前、ビスフォスフォネート製剤（BP製剤）^{*}や抗RANKL抗体製剤^{*}などの服薬前から継続的に歯科で口腔機能管理を行うことで、口腔粘膜炎や顎骨壊死などの様々なリスクを下げる事が可能となります。入院患者の日常的な口腔ケアについても、医科歯科連携により個々の患者に応じたアドバイスを歯科衛生士が行うほか、口腔に問題が生じれば、歯科医師等の訪問診療が可能です。

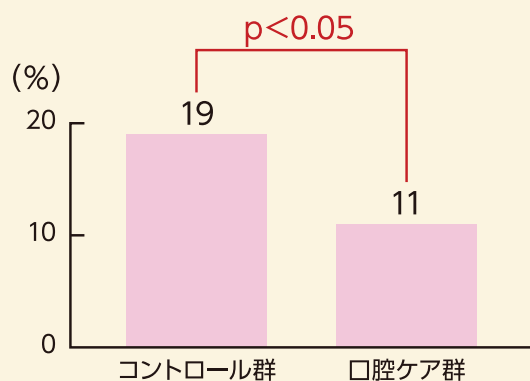
※骨粗しょう症治療薬、がん骨転移による骨病変の治療薬

入院患者に必要な口腔健康管理

入院中の患者は手術時の全身麻酔や外科的侵襲、化学療法や放射線治療、服薬治療等により様々な影響を受けますが、あらかじめ、お口の状態を改善しておくことで食事の際の苦痛軽減、全身状態の回復を早めるなどの効果が期待できます。

周術期の口腔ケアにより肺炎などの合併症や入院日数が減少します

口腔ケアで誤嚥性肺炎が減る

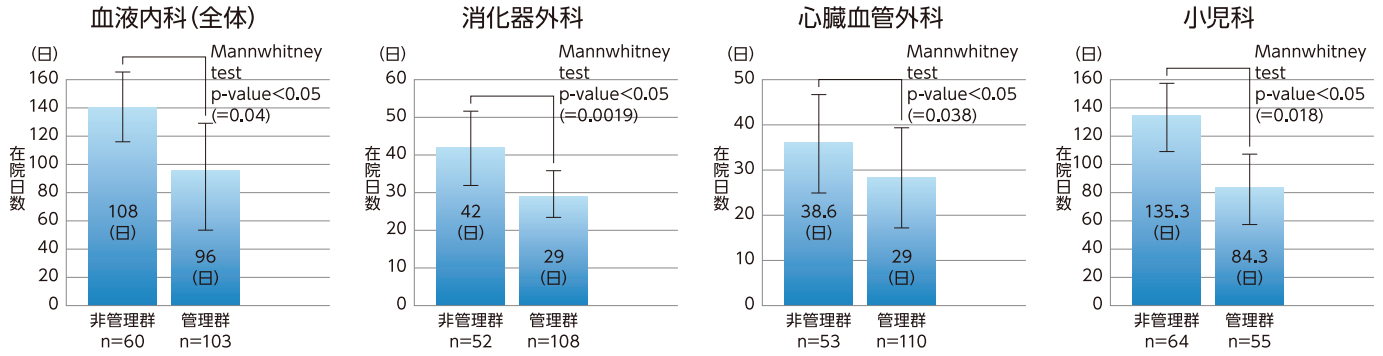


(Yoneyama T etc, Lancet. 354: 515, 1999)



歯垢（プラーク）1mg中には数億もの細菌がいるといわれ、この細菌が肺炎や手術をした部位の感染などの合併症を引き起こすことがあります。特に全身麻酔下での手術前には、歯垢をできる限り取り除いておくことが必要です。

口腔機能の管理による在院日数に対する削減効果



出典：「2040年を見据えた歯科ビジョンー令和における歯科医療の姿ー」公益社団法人日本歯科医師会 (<https://www.jda.or.jp/dentist/vision/pdf/vision-all.pdf>) 図表6 口腔機能の管理による在院日数に対する削減効果より改編

いずれの診療科においても口腔機能管理群では、在院日数の削減効果が統計学的に有意に認められた。

【管理群】 歯科医師により診査・計画され、歯科医師・歯科衛生士により実施された専門的な口腔機能の管理を受けた群

周術期を含む入院患者への口腔ケアに関するアンケート調査 (令和3年9月)

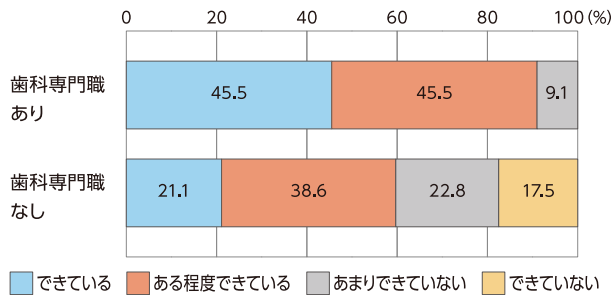
県内のすべての病院を対象に「周術期を含む入院患者への口腔ケアに関するアンケート調査」を実施しました。

調査対象：県内全病院135施設

回答：68病院 (歯科専門職あり 10、歯科専門職なし 56、記載なし 2) / 回答率：50.4%

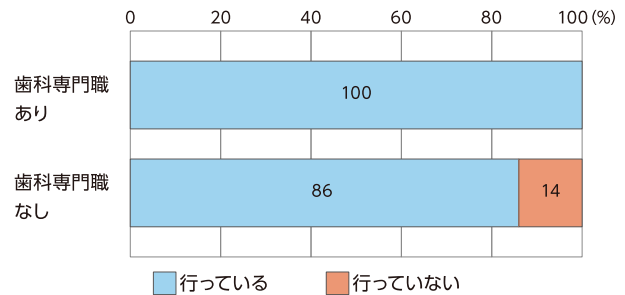
1 医科歯科連携の実施状況

医科歯科連携は過半数である程度実施できている。



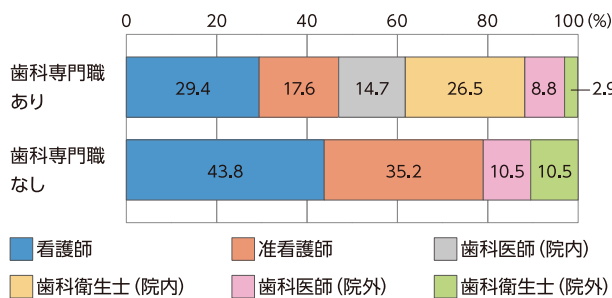
2 口腔ケアの実施状況

ほとんどの病院で入院患者に対する口腔ケアを行っている。



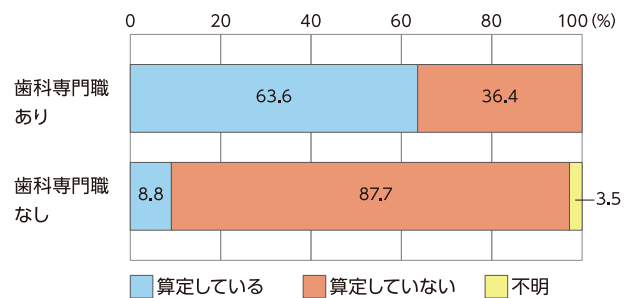
3 入院患者等に対する口腔ケアを行っている職種

歯科専門職のいない病院では、看護師及び准看護師が口腔ケアを行っている割合が多い。



4 周術期等口腔機能管理に関する診療報酬算定状況

歯科専門職のいない病院では、算定していないところが多い。



県内のほとんどの病院で入院患者に対する口腔ケアが行われていますが、周術期等口腔機能管理に関する診療報酬を算定している医療機関は少ない状況です。また、看護師や准看護師が口腔ケアを行っている病院が多いようです。

「口腔内チェック」で口腔状態を把握しましょう

入院（外来通院を含む）が決まった患者への対応として、お口のトラブルを予防するため、治療開始前に歯科受診を促しましょう。特に、以下のチェック項目に該当する患者に対しては、右図（P4）の医科歯科連携の流れを参考に、入院前から医科と歯科の連携を進めましょう。

入院前・手術前・投薬前のチェックリスト

□にチェックが入れば歯科との連携が必要な患者です。

かかりつけ歯科や地域の歯科医療連携センター（歯科医師会）にご相談ください。

- 全身麻酔下での手術を予定している。
- 化学療法を行う予定がある、または行っている。
- 頭頸部を含む放射線治療を行う予定がある、または行っている。
- ビスフォスフォネート製剤（BP製剤）や抗RANKL抗体製剤の投薬予定がある、または行っている。
- 造血幹細胞移植を予定している。
- むし歯や歯周病、義歯不適などの問題がある。
- 咀嚼や嚥下に問題がある。
- 口腔内が汚れている。
- 口臭が強い。
- 糖尿病である、またはその疑いがある。

口腔内チェックリスト

患者のQOLの向上のため、お口のトラブルにも対応する必要があります。

□にチェックが入る場合は、かかりつけ歯科や地域の歯科医療連携センター（歯科医師会）にご相談ください。

1 むし歯や歯周病などの疾患のチェック

- むし歯がある。
- かぶせ歯や詰め物がはずれている。
- 歯ぐきの腫れや出血がある。
- 粘膜に口内炎等の異常がある。

2 口腔清掃状況のチェック

- うがいができない。
- 食物残渣や歯垢が多く認められる。
- 舌苔が認められる。
- 麻痺側に食べ物が残ったままになっている。

3 義歯のチェック

- 義歯が合わずに傷や痛みがある。
- 義歯がゆるくはずれやすい。
- 義歯が破損している。
- 義歯脱着が自分でできない。

4 食事のチェック

- むせることが多くなった。
- 食事に時間がかかる。
- 食事量が減った。

医科歯科連携の流れ

病院
(医療連携窓口)



患者、または
病院(医療連携
窓口)から連絡

①
お口のケア
依頼
※診療情報提供書

地域の歯科医療連携セ
ンター(歯科医師会)・
かかりつけ歯科・地域の
歯科医療機関



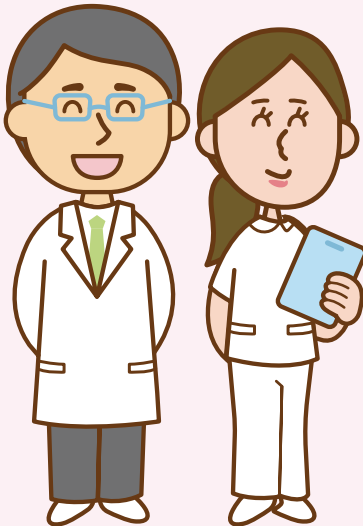
入院前または
通院治療のお口のケア

お口のケアを実施し
必要な場合は歯科治療



- ・むし歯の治療
- ・動揺歯の固定
- ・抜歯
- ・歯石除去
- ・義歯の調整など

入院・治療



②
口腔内の
情報提供
※口腔機能管理計画書

退院後のお口のケア

受診または訪問による
地域の歯科医療機関での
定期的なお口のケア



退院・外来通院

③
定期的な
口腔管理

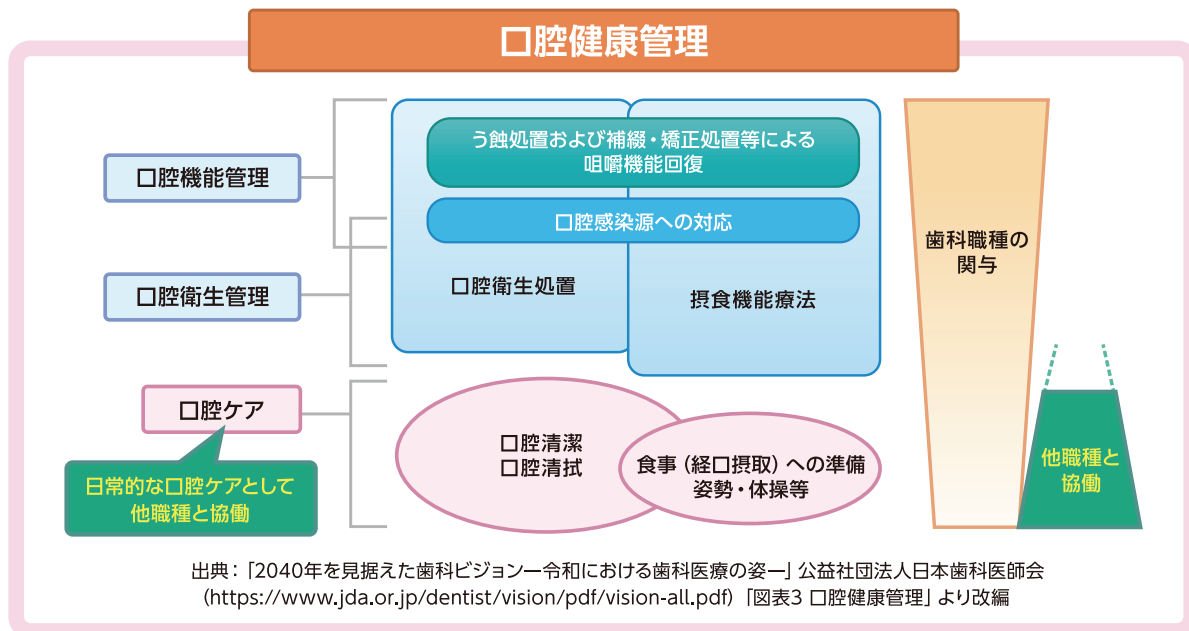
※保険点数を算定する場合、診療情報提供書等の作成、提出が必要です。

※診療情報提供書等が必要な場合は、宮崎県歯科医師会までお問合せください。

病院内に歯科がある場合は、院内で連携を進めましょう。

日常的な口腔ケアについて

入院患者に対しより効果的に口腔健康管理を行うためには、歯科医師、歯科衛生士による専門的な口腔管理と看護師等による日常的な口腔ケアを十分に連携して行うことが重要です。看護師による日常的な口腔ケアのポイントをまとめましたので、ご参考ください。



まずは道具をそろえましょう

基本準備物

- ◎歯ブラシなどのケアグッズ
- ◎口腔用ウェットシートまたはガーゼ
- ◎保湿剤
- ◎手袋
- ◎ビニール袋
- ◎フェイスタオル
- ◎ガーグルベースン
- ◎フェイスシールド

・手早く口腔ケアが行えるよう、使用する道具を近くに準備しましょう ※写真は一例
・普段使用している歯ブラシを確認しましょう



おすすめの口腔ケアグッズ



歯間ブラシ

歯間部に残った歯垢を除去



モアブラシ

綿毛のようなソフトな感触で、デリケートな口腔内にも安心



球状ブラシ(くるりナブラシ)

お口の粘膜や口腔に残った食べかす、痰を清掃するための専用ブラシ



スポンジブラシ

上あご、歯ぐき、頬の内側の粘膜の汚れの除去に適している



舌ブラシ

舌苔を取る時に便利。口臭軽減の効果あり



義歯ブラシ

義歯を効率よくみがける

口腔ケアを行う前に

1 患者への声かけをしましょう

「口腔ケアをさせていただきます」など、最初に声掛けを必ず行いましょう。その際に反応を伺うことが、患者の状態を確認する意味でも重要です。また、がん手術など治療方針が決まった時には、口腔ケアの必要性などを説明し、同意を得ておく必要があります。

口腔ケアをさせていただきます



2 姿勢を整えましょう

口腔ケアを行う時は、患者の状態に合わせた無理のない姿勢で行いましょう。座位の場合は、誤嚥に注意し、座位が取れない場合や挿管中などは、側臥位や仰臥位でケアを行いましょう。



ベッド上でのケアの姿勢

- 背もたれは状況により30度～60度にする。
- お尻はピタッとマットにつけて、姿勢を安定させる。
- 膝は曲げて、足にはタオルなどをまらめて置き、姿勢を安定させる。

誤嚥防止の「うなずきポジション」

あごの先から胸の間に指4本が入るくらいが目安です。食べたものが気管に入りにくくなります。

3 口腔内を観察しましょう

口腔ケアをする前に、歯や歯ぐきに異常がないか口腔内をチェックしましょう。義歯を使用している場合は義歯を外し、粘膜の傷や義歯の破損がないかを確認してください。

歯や歯ぐきの状態

健康な歯ぐきは、きれいなピンク色で引き締まっています。むし歯になると歯に穴があいたり、黒ずんだりしてきます。

<p>根面むし歯</p> <p>歯ぐきが退縮し、露出した歯根がむし歯になった状態</p>	<p>歯周病</p> <p>歯ぐきが赤く腫れ、出血しやすくなります。</p>	<p>顎骨壊死</p> <p>ビスフォスフォネート製剤（BP製剤）などの服薬で、骨壊死部が露出している状態</p>
---	---	--

舌の状態

健康な舌はピンク色で、白く薄い舌苔があります。舌苔が厚く付いた場合などは、口腔ケアが必要です。

舌苔が厚く付いた状態

粘膜の状態

健康な口腔粘膜は、適度に湿潤していて張りがあり、薄いピンク色をしています。粘膜が乾燥していないか、痰がはり付いていないかなど確認しましょう。

<p>剥離上皮膜</p> <p>口腔内が乾燥し、痰が舌や口蓋にはり付いた状態</p>	<p>褥瘡性潰瘍</p> <p>義歯の下の粘膜に潰瘍があれば、義歯調整が必要です。</p>
---	--

実際に口腔ケアをやってみましょう

1 まずは保湿をしましょう

口腔内が乾燥している方は、最初に保湿剤を塗ってからケアを始めましょう。うがいができる方は、ブクブクうがいをします。



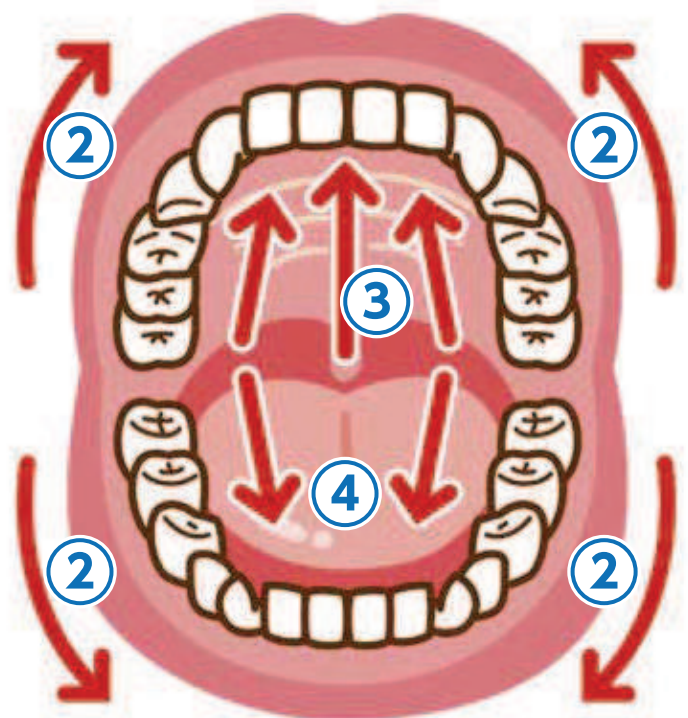
①保湿剤を手の甲に適量出し、人差し指でのばす

②唾液と混ぜながら頬、口、舌、歯ぐきに全体的に薄く塗る

2 口腔内粘膜ケアのポイント



- ① スポンジブラシやガーゼを水に浸し、しっかり絞ります。
- ② 左右の頬の内側を上下にスポンジブラシを回転させながら動かします。唇の内側を小帯を避けながら動かしましょう。
- ③ 口蓋粘膜を後ろから手前に向かって動かします。嘔吐反射を生じることがあるため、注意が必要です。
- ④ 舌苔がある場合は、舌ブラシまたはスポンジブラシで奥から手前に向かって優しく動かしましょう。



舌などにみられるカサツタのような「乾燥剥離上皮膜」は、保湿剤を使用しながら、数回に分けて除去しましょう。

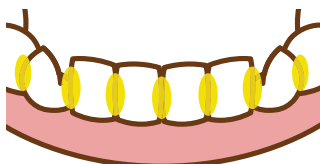


← 口腔内粘膜ケアの方法を動画でチェック

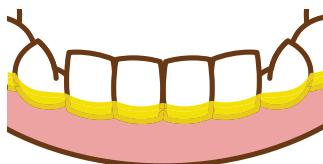
3 歯みがきのポイント

歯垢（プラーク）は細菌のかたまりです。みがき残しの多い場所に注意して歯垢を取り除くことが必要です。特に歯と歯の間は、むし歯ができやすく、歯周病も進行しやすいので注意しましょう。

みがき残しの多い場所



歯と歯の間

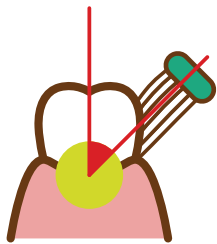


歯と歯ぐきの境目



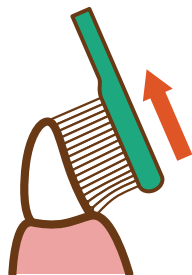
奥歯の溝

歯ブラシのあて方



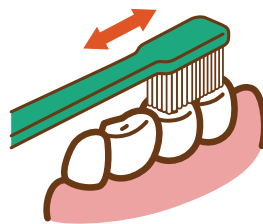
歯と歯ぐきの間

45度の角度で軽い力で小刻みに動かします。



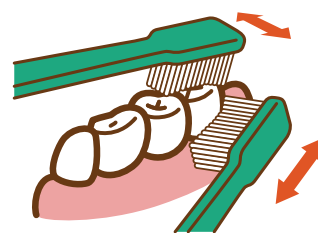
前歯の裏側

歯ブラシを縦に使い、かき出すように動かします。



奥歯のかみ合わせ面

前後に小刻みに動かします。



奥歯の後ろ側

歯ブラシのつま先を使って奥歯の外側と内側をみがきます。

- 歯と歯の間は、歯間ブラシやデンタルフロスを使用しましょう。
- むし歯予防のため、フッ化物配合歯磨剤の使用が効果的です。
- 歯ブラシは、ヘッドが小さめでやわらかめの歯ブラシがおすすめです。

歯ぐきに腫れや出血がある場合は、歯科医師、歯科衛生士にご相談ください。

義歯を使用している場合

義歯に残るヌルヌルの正体は、細菌やカンジダなどの真菌です。義歯の清掃は、口腔内から義歯をはずして義歯清掃を行います。その際に、義歯の破損や不具合、義歯の粘膜面に傷がないかを確認しましょう。

義歯ケアのポイント

落下による破損を防ぐため、水の張った洗面器などを用意しましょう。

- ①流水下で義歯ブラシを使ってみがきましょう。
※熱湯は義歯の変形の原因になるため水で洗いましょう。
※歯みがき粉は義歯に傷がつくため使用しないようにしましょう。
- ②就寝前は、義歯を外し、乾燥を防ぐため水につけておきます。



部分義歯の金属部分は汚れが残りやすいため、義歯ブラシの小さい方で念入りにみがきましょう。



義歯の裏側は、義歯ブラシの大きい方で丁寧にみがきましょう。

義歯についての細菌の繁殖を防ぐため、義歯洗浄剤を使用すると効果的です。

義歯を清潔で良い状態に保つことで、おいしく食事ができたり、会話を楽しんだり、審美性を保つなど入院中のQOLの向上につながります。

義歯に問題があれば歯科医師、歯科衛生士にご相談ください。

4 うがい・拭き取りのポイント

コップや吸い飲み、ストロー等を使って口に含み、口を閉じてブクブクとうがいをし、ガーグルベースンへ吐き出してもらいます。その際に、水分を誤嚥しないようしっかりと前屈みの姿勢を取ってもらいましょう。うがいができない方は、口腔用ウェットシートなどでしっかりと拭き取りましょう。

うがい介助のポイント

- ①ガーグルベースンを準備します。
- ②軽く前屈した状態で水を含んでもらい、ブクブクうがいをしてもらいます。
- ③ガーグルベースンへ吐き出してもらいます。

口腔機能が低下している患者は水分を完全に吐き出すことができません。この場合、口の中に水分が残っていることがあり、誤嚥の原因となるため注意が必要です。



うがいができない方の場合

- ①口腔用ウェットシートやガーゼを指に巻き付けて行います。
- ②誤嚥防止のために奥から手前に汚れをきれいに拭き取ります。歯、歯ぐき、頬の内側、舌のすみずみまで行いましょう。
- ③途中、口腔用ウェットシートなどを裏返して、きれいな方で拭き取りましょう。



口腔用ウェットシートを指に巻き付けて行います



清拭方法を動画でチェック

5 最後に保湿をしましょう

口腔内が乾燥している方は、最後に保湿剤を塗って終了です。多めにべっとりと塗るのではなく、指で薄くのばして全体的に塗りましょう。

お口の体操をしましょう

口唇や舌には「口に入った食べ物をまとめる」「食べ物を左右の奥歯に運ぶ」「飲み込む」などのとても重要な役割があります。食べ物だけでなく、唾液などの分泌物を口腔内に潤滑させ、飲み込む働きがあります。口腔の運動機能が低下している患者は、これらの自浄作用が低下しているため、口腔内の衛生を保つことが難しい場合が多くあります。そのために、機能的な訓練を行い、口腔機能の維持・向上を図ることが大切です。

舌の体操

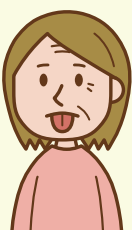
むせ込みや咀嚼機能の低下、嚥下障害や発音障害の予防につながります。



頬をふくらます



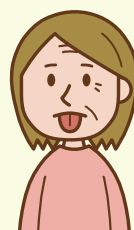
すぼめる



舌を上下に出す



舌を前方に出す

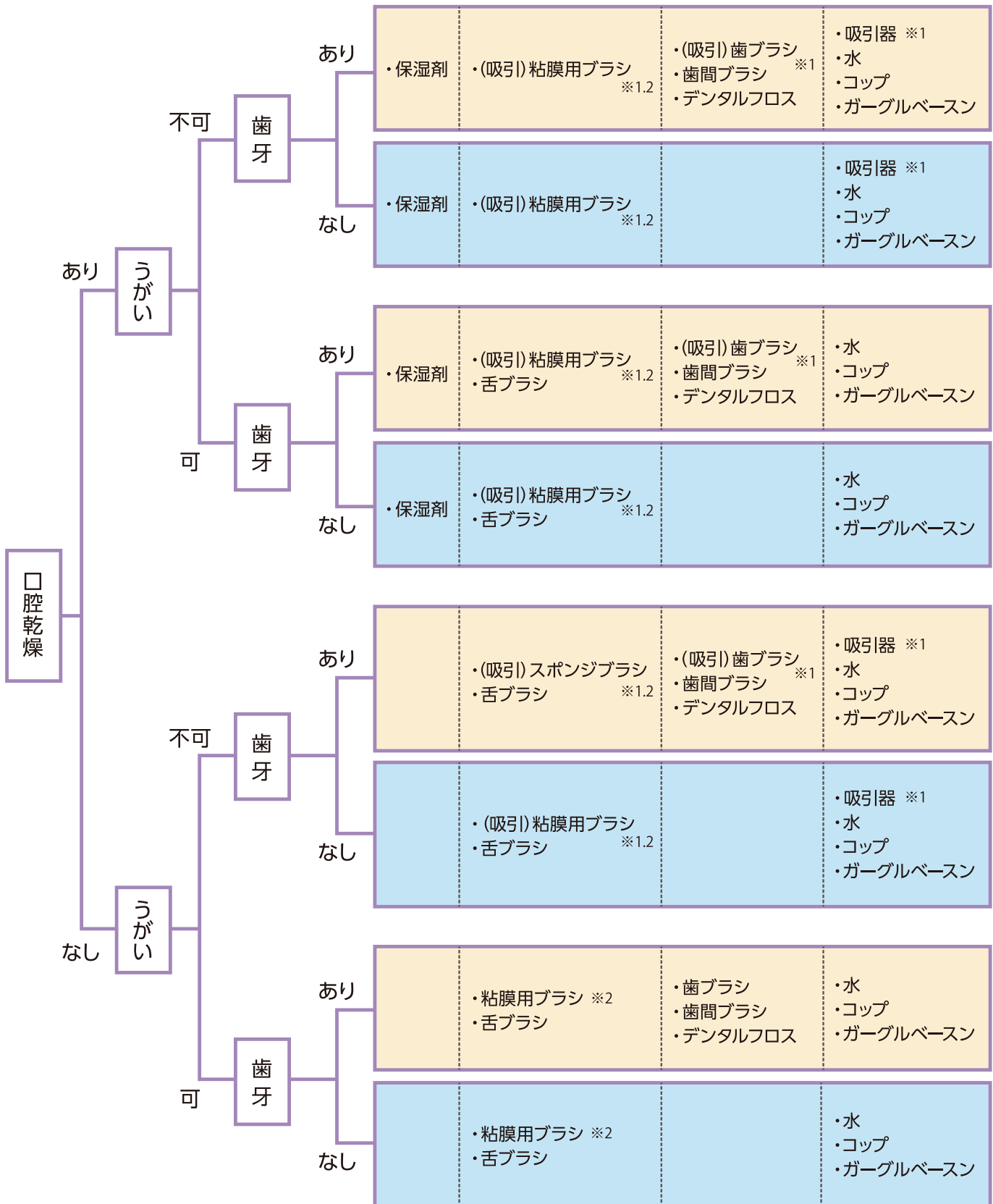


舌を上唇の中に入れる



舌を下唇の中に入れる

参考 症状別でそろえるグッズリスト



※1. 吸引器、吸引粘膜用ブラシ、吸引歯ブラシがあると便利です。

※2. 粘膜用ブラシ：スポンジブラシ、モアブラシ、球状ブラシ（くるりナブラシ）等

<口腔ケアに関する相談先>

宮崎県では、医科歯科連携及び在宅歯科医療の推進のため、県内4か所に窓口を設置し、病院等からの口腔ケアに関する相談や依頼を受け、患者の口腔管理を実施しています。お気軽にご相談ください。

地域の歯科医療連携センター（宮崎県歯科医師会）

宮崎県地域歯科医療連携センター	
住所	宮崎市清水1丁目12-2
連絡先	0985-29-0055
FAX	0985-22-6551

都城地域歯科医療連携センター	
住所	都城市八幡町11-3
連絡先	080-1760-1349

延岡市地域歯科医療連携センター	
住所	延岡市大瀬町3丁目4-5
連絡先	090-5933-8290

日南地域歯科医療連携センター	
住所	日南市中央通2丁目2-14
連絡先	090-5734-2839

その他の地域は、「宮崎県地域歯科医療連携センター」へご連絡ください。

宮崎県歯科医師会ホームページ
<https://www.miyazaki-da.or.jp>



編集・発行

宮崎県歯科医師会

〒880-0021 宮崎県宮崎市清水1丁目12番2号
Tel: 0985-29-0055 / Fax: 0985-22-6551

宮崎県・宮崎県口腔保健支援センター

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号
Tel: 0985-26-7078 / Fax: 0985-26-7336